

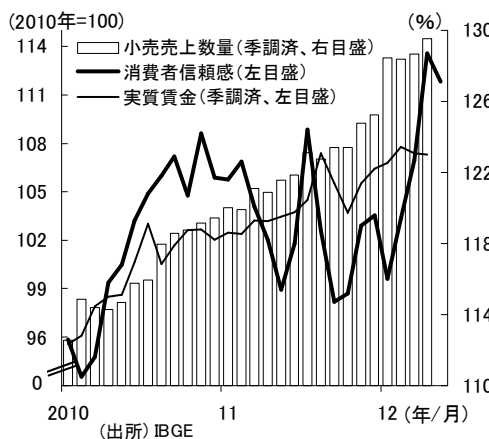


ブラジル消費増勢加速

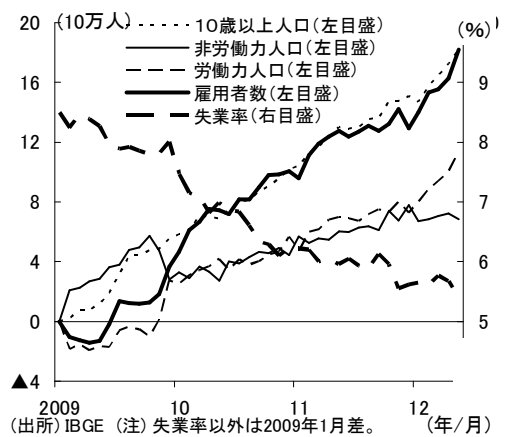
～ 地方圏・耐久財消費が盛り上がり ～

- (1) ブラジルの消費増勢再加速（図表1）。小売売上数量が本年に入り急増。2～3月には横這いで推移したものの、4月は再び増勢へ。閏年要因などによる一時的動きでなく基調的動きの可能性。そこでまず所得環境をみると、実質所得は月々の変動はあるものの、趨勢的増勢持続。昨年末と本年初で大きな差異無。それに対して消費者マインドは昨秋を底に持ち直し。とりわけ本年2月調査から急速に改善。現状判断と将来予測別にみると現状判断が昨年10月をボトムに大幅改善。本年4月は既往最高更新。レアル高修正や昨夏から累次の利下げで景気懸念が後退。
- (2) 加えて雇用情勢の改善傾向に拍車（図表2）。労働需給逼迫に伴い昨春来、雇用者数は頭打ちで推移していたものの、本年入り後、非労働力人口が減少に転じ、雇用者数が再び力強い増勢を回復。本年5月の失業率は季調済ベースで5.4%と既往最低更新。非労働力人口の労働力人口化はサンパウロやリオデジャネイロなど都市圏より地方圏主導。都市圏依存からの脱却が進展。
- (3) 分野別にみると小売売上増はスマホなどモバイル型情報端末をはじめ電子機器の売上が好調な事務機器、次いで住宅需要の拡大を映じた家具・家電分野が牽引（図表3）さらに食料品や医薬・化粧品需要も盛り上がり。総じて所得水準の向上や中間層の増加を映じた消費市場拡大および消費水準の上昇に伴う動き。
- (4) さらに地域別にみると、地方圏は総じて都市圏を上回るハイペースの増勢（図表4）。大別すると、サンパウロ州に隣接するミナスジェライス州やパラナ州は都市圏成長に伴い投資エリアが拡大、マラニョン州やパラ州、セアラ州では北部開発が進捗、ペルー国境のアクレ州では貿易本格化に備えた投資増、油田開発進展するエスピリトサント州。地方圏を支える原動力は多様。不測の外的ショックへの耐久力が一段と強化へ。資本流入は引き続き高水準。移入で労働制約の緩和が進むと、成長ペース再加速が視野に。

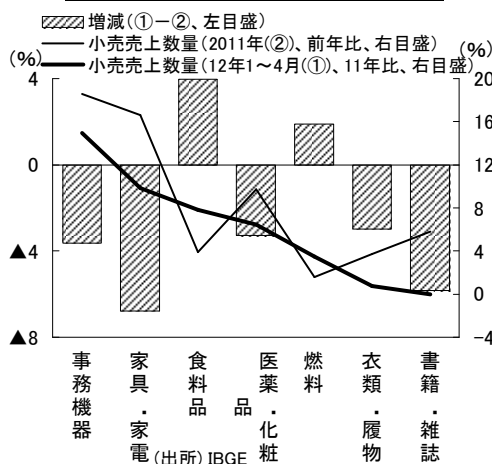
（図表1）ブラジルの小売売上数量と消費者信頼感



（図表2）人口、労働力、雇用者数と失業率（季調済）



（図表3）分野別小売売上数量（季調済）



（図表4）エリア別小売売上数量（季調済）

